

脳血管障害について

都留市立病院内科

志村 光弘

① 脳血管障害とは

脳血管障害とは、脳の中の血管が何らかの原因で破れたり詰まったりして、血液の流れに異常が起る病気の総称です。まず、図のように脳を流れる血管が破れて頭蓋内に出血する「頭蓋内出血」と、血管が詰まって起こる「脳梗塞」に大きく分けられます。さらに頭蓋内出血は、主に高血圧などが原因で血管の弱いところに圧力がかかり破れて出血する「脳(内)出血」と、脳の血管が枝分かれしているところなどに瘤(脳動脈瘤)ができた動脈や静脈に奇形があつて、そこが破裂して脳の表面を包むクモ膜の下に出血する「クモ膜下出血」とに分けられます。以前脳いっ血と呼ばれていたのが脳(内)出血ですし、ふつう脳出血といったらこの脳内出血のことを指します。また、昔は「脳軟化症」とも呼ばれていた脳梗塞は、動脈硬化などのため血管が狭くなりさらにここに血液の固まり(血栓)ができ血液が流れなくなる「脳血栓症」と、心臓の中などにできた血栓がはがれて流れ出し、脳の血管に詰まってしまう「脳塞栓症」に分けられます。

このほかに、脳梗塞と同じような症状を示しますが二十四時間以内にすっかり回復してしまう「一過性脳虚血発作(TIA)」や、血圧が急に著しく上昇し、それと共に視力低下などを起こし、血圧を下げるとうっかり回復する「高血圧性脳症」のような一時的な脳血管障害もあります。

よくいわれる「脳卒中」は、本来は脳血管障害のうち急に意識障害を起こして倒れ、麻痺も合併している重症型のことを指しますが一般には脳血管障害と同じ意味で使われています。

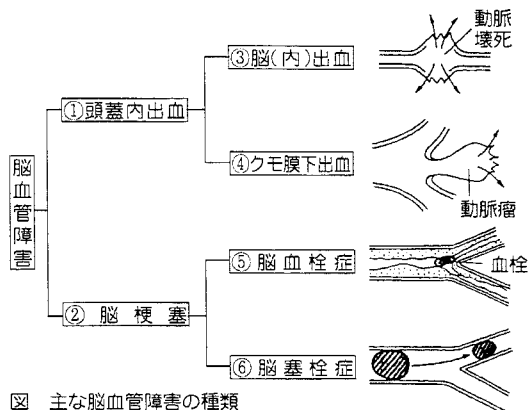


図 主な脳血管障害の種類

表 主な脳血管障害の発症のしかた

種 類	発症	主 な 症 状	原 因
クモ膜下出血	突 然	激しい頭痛、嘔吐	脳動脈瘤、脳動静脈奇形(いずれも先天的要因が大)
脳 出 血	急速に	意識障害、意識不明、嘔吐、めまい、頭痛、昏睡、麻痺	動脈壊死など(高血圧が原因)
脳 血 栓 症	徐々に	舌のもつれ、嘔吐、手足の軽い麻痺	脳の動脈硬化など(年齢、高血圧が要因)
脳 塞 栓 症	突 然	片麻痺、意識障害	動脈硬化、心房細動、心筋梗塞、心臓弁膜症が原因で生じた血栓がはがれたものなど

② 症 状

脳血管障害になると、まず発作という形で意識障害を起こすことが多く、ひどい場合には意識が全くなくなることもあります。

発作を起こした後どのような症状が出るかといいますが、まず一番多いのが半身不随(片麻痺)といわれる状態で、左右どちらか一方の手足が麻痺して動かなくなります。同時に同じ側の感覚が低下することがあります。

その他、舌や唇の動きが悪くなつて話にくくなったり(構音障害)、物が飲み込みにくくなったり(嚥下障害)することもあります。また、失語症といって言葉自体が話せなくなったり、話されても理解できなくなったりすることもあります。

③ 検 査

現在、脳血管障害が疑われる患者さんに対しては、まずCTやMRIを撮ります。

CTはコンピューター断層撮影といわれ、X線を使用してそれをコンピュータで処理して輪切りの画像とするものです。

MRIはCTと似ていますが、X線ではなく磁気を使うため磁気共鳴画像といわれるもので、小さい脳梗塞を見つける時などにとても威力を発揮します。またCTほどは普及していませんが最近では備えている病院も多くなり、当院でも今年五月より検査ができるようになりました。

通常は、最初にCTを撮りこれで不十分な場合にMRIで再検査することが多いです。

④ 治 療

脳出血が脳梗塞かによって治療は異なるところがありますが、発作を起こしたばかりの急性期に共通に行われるものとして、意識状態や血圧、呼吸などの全身状態の管理と、点滴等による、脳のむくみ(脳浮腫)の治療です。

さらに、脳出血やクモ膜下出血では手術適応があると考えられた場合は、脳外科において血腫除去術や脳動脈瘤結紮術が行われることもあります。

脳梗塞の場合は手術適応はないため、血栓溶解薬や抗血小板薬に

よる治療が中心となります。

そして、いずれの場合にも肺炎などの合併症に注意しながら、なるべく早期からのリハビリテーションを考えていくことになります。

⑤ 予 防

最後に、予防について脳血管障害の種類別に述べてみたいと思います。

まず脳出血ですが、ほとんどが高血圧によるものであるため、血圧のコントロールが最も大切です。クモ膜下出血に関しては、残念ながらうまい予防法はありません。というのは、原因となる脳動脈瘤や脳動静脈奇形は大部分が生まれつきのものであるからです。

次に脳血栓ですが、これは血管の動脈硬化を背景に起こってきますが、動脈硬化の最大の原因は実は年齢です。つまり、高齢になれば脳血栓になる可能性は誰にでもあるということになりますが、年をとること自体は防ぎようがありませんから、他の危険因子となるものをできるだけ避けるようにすることがです。その主なものは、高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙、飲酒などです。

脳塞栓は最初に述べたように、心臓の中でつくられた血栓が流れていき、脳の血管に詰まって起こることが大部分です。この心臓内血栓の原因となるのは、心房細動という不整脈であることが多く、治療が必要となります。